# 化学物質過敏症 1級の認定事例

お

願い

臨

床所見

等

は

療録に基づ

٧١

7

わか

る範囲で記入してくださ

経過

① 免疫機能障害  1 検査成績  ***********************************	(平成 年		3現症)		
16 X D   V			15%上/	2 身 体 症 状 等	
接養項目   「一」	<b>並位・・</b>	u	Z均值	- 2 - ダ - 体 - 延 - 仄 - 等 D1日1時間以上の安静臥床を必要とするほどの強い僧	·台献 B-78
		<del></del>	~7 但	DI F I 時間以上の女静畝床を必要とするほとの強い危 易疲労感が月に7日以上ある	(者・無)
CD4陽性Tリンパ球数 /	μθ			②病態の進行のため、健常時に比し10%以上の体重制	y
(減症日以前の4週間以上の間)	<b>高をおいて実施した連続す</b>	る直近2回の検査結果を	*	別月に7日以上の不定の発熱(38℃以上)が2ヶ月以上。	~ / ( // // // // // // // // // // // //
記入し、一番右の欄にはその平	均値を記入してください。)			01日に3回以上の泥状ないし水様下痢が7日以上ある	~
検査項目 検査日 自	≦位  ・・・・		•	01日に2回以上の嘔吐あるいは30分以上の嘔気が月に	27日 (有・無)
	'μle			以上ある	
	/de			動悸や息苦しくなる症状が毎日のように出現する	(有・無)
血小板数万	/µl			が 抗HIV療法による日常生活と支障が生じる副作用が	ある
HIV-RNA = =t	-/He			(①~⑥の症状を除く)(抗HIV療法を実施している場	合) (有・無)
(減症日以前の4週間以上の間) 記入してください。)	Rをおいて実施した連続す	る直近2回の検査結果を	È.	生鮮食料品の摂取禁止等の日常生活活動上の制限が必要	である (有・無)
perco creer ar				①1年以内に口腔内カンジダ症、帯状疱疹、単純ヘルペスウイルス感	染症
				伝染性軟属腫、尖圭コンジローム等の日和見感染症の既往がある	(有・無)
				度学的理由により抗HIV療法ができない状態である	(はい・いいえ)
3 現在持続している副作					能なエイズ合併症のため くしては日常生活がほと
]代謝異常 □ リポアトロフィ			□神経障害		可能な状態である。
□ その他(薬剤名、服薬状δ -	[及び副作用の状況]				
					はい・ いいえ
_				ال `````````	100 Y Y 1/AL
- 6 肝炎の状況 (□ 薬剤	削性 ・□B型	· □ C型 · □	] その他(	))(肝炎を発症している場合は必ず記載し	てください。)
(1) 検査所見			(2) 臨床別	L	
検査項目	単位・・・	T	食道静	が 毎 左 (市別雄)とと お始けまし	12 t 7 7 0 /h /
	g/dl	+	及追射 肝 硬		
AST (GOZ)		<del>                                     </del>	肝細		<u> </u>
ALT (GPT)			肝性		<b>ある</b> )
プロトロンビン	%		腹	水無・有・著	•
時間	延長秒		消化管		<b>ある</b> )
(経ビリルビン(※)	mg/dℓ	(	(※ ビリルビ	値の上昇をきたす薬剤の使用 無 ・ 有 )	
その他の障害	(平成 23 年	12月17	日現症)		
1 症 状				検 査 成 績	
1) 自 覚 症 状				(1) 血液·生化学検査	
				検査日 以	
動けなくなるほどの筋肉 常発汗、易疲労などの				検査項目 単位 施設基準値	
呼吸困難などの呼吸器類				赤血球数 万/400	
眼の炎症などの眼科的類	定状、湿疹、かゆa	みなどの皮膚症が	tなど	ヘモグロビン濃度 g/dℓ ペマトクリット %	- $/$ $            -$
の多彩な症状が出現してる。	こいる。また、微乳	恐や月経不順かめ	95n	血清総蛋白 g/dℓ	$\overline{}$
<b>⊘</b> ₀				血清アルブミン g/dℓ	
0) 44 44 75					
2) 他 覚 所 見				(2) その他の絵本成績	
2) 他 覚 所 見 声の発生が弱くて聞き		必要であった。		(2) その他の検査成績	
		必要であった。		(2) その他の検査成績	
	<b>――――――――――――――――――――――――――――――――――――</b>	必要であった。		(2) その他の検査成績	
	収り難く、筆談が収	必要であった。		(2) その他の検査成績	
	収り難く、筆談が』	必要であった。		(2) その他の検査成績	
	収り難く、筆談が』	必要であった。		(2) その他の検査成績	
声の発生が弱くて聞き	収り難く、筆談が』	必要であった。		(2) その他の検査成績	
声の発生が弱くて聞き ・ 人工 臓器等			年 月 『		年日・平成 年 日 口
声の発生が弱くて聞き	無・有 造説	<b>设年月日: 平成</b>		(4) 自己導尿の常時施行 無 <u>・有</u> 開始	<b>年月日:</b> 平成 年 月 日 年月日: 平成 年 月 日
声の発生が弱くて聞き ・ 人工 臓器等	無 · 有 造影 閉鎖	全年月日: 平成 14年月日: 平成	年 月 月 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	(4) 自己導尿の常時施行 無 <u>・有</u> 開始	年月日: 平成 年 月 日
声の発生が弱くて聞き ・ 人工 臓 器 等 (1) 人工肛門の造設	無 · 有 造設 閉鎖 無 · 有 造設	全年月日: 平成 14年月日: 平成	年月日	(4) 自己導尿の常時施行 無 · 有 開始 終了	年月日: 平成 年 月 日
声の発生が弱くて聞き 人工 臓器 等 (1)人工肛門の造設	無 ・ 有 造設 閉 無 ・ 有 造設 類 類	2年月日: 平成 3年月日: 平成 3年月日: 平成 3年月日: 平成	年 月 F 年 月 F	(4) 自己導尿の常時施行 無 · 有 開始 終了	年月日: 平成 年 月 日
声の発生が弱くて聞き 人工臓器等 (1)人工肛門の造設 (2)尿路変更術 (3)新膀胱造設	無 ・ 有 造設 閉 無 ・ 有 造設 類 類	Q年月日: 平成 其年月日: 平成 设年月日: 平成 设年月日: 平成	年 月 F 年 月 F	(4) 自己導尿の常時施行 無・有 開始 終了 (5) 完全尿失禁状態 無・有 (カテーテ)	年月日: 平成年月日 ル留置: 平成年月日)
声の発生が弱くて聞き 3 人工職器等 (1) 人工肛門の造設 (2) 尿路変更術 (3) 新膀胱造設	無 · 有 造影 閉鎖無 · 有 造影 閉鎖 形 · 有 造影 切 · 并 · 有 · 手 · 并	文年月日: 平成 (4年月日: 平成 (4年月日: 平成 (4年月日: 平成 (5年月日: 平成	年 月 日 年 月 日 年 月 日 年 月 日	(4) 自己導尿の常時施行 無 · 有 開始 終了 (8) 完全尿失禁状態 無 · 有 (カテーテ) (6) そ の 他 の 手 術 無 · 有 (	年月日: 平成年月日 ル留置: 平成年月日) )平成年月日
声の発生が弱くて聞き取る 人工 臓器 等 (1) 人工 肛門 の造設 (2) 尿 路 変 更 術 (3) 新 膀 胱 造 設 現症時の日常生活活	無 · 有 造設 閉鎖 無 · 有 造設 閉鎖 無 · 有 造設 閉鎖 無 · 有 手術	2年月日: 平成 2年月日: 平成 2年月日: 平成 2年月日: 平成 5年月日: 平成 5年月日: 平成	年 月 日 年 月 日 年 月 日 年 月 日 、常に症状	(4) 自己導尿の常時施行 無 · 有 開始 終了 (5) 完全尿失禁状態 無 · 有 (カテーテン (6) そ の 他 の 手 術 無 · 有 ( が出現している状態である。症状は悪化傾向に	年月日: 平成年月日 ル留置: 平成年月日) )平成年月日
声の発生が弱くて聞き 人工臓器等 (1)人工肛門の造設 (2)尿路変更術 (3)新膀胱造設 現症時の日常生活活動能力及び労働能力	無 · 有 造設 閉鎖 無 · 有 造設 閉鎖 無 · 有 造設 閉鎖 無 · 有 手術	2年月日: 平成 2年月日: 平成 2年月日: 平成 2年月日: 平成 5年月日: 平成 5年月日: 平成	年 月 日 年 月 日 年 月 日 年 月 日 、常に症状	(4) 自己導尿の常時施行 無 · 有 開始 終了 (8) 完全尿失禁状態 無 · 有 (カテーテ) (6) そ の 他 の 手 術 無 · 有 (	年月日: 平成年月日 ル留置: 平成年月日) )平成年月日
声の発生が弱くて聞き 3 人工職器等 (1)人工肛門の造設 (2)尿路変更術 (3)新膀胱造設 現症時の日常生活活動能力及び労働能力 必ず記入してください)	無 · 有 造設 閉鎖 無 · 有 造設 閉鎖 無 · 有 造設 閉鎖 無 · 有 手術	2年月日: 平成 2年月日: 平成 2年月日: 平成 2年月日: 平成 5年月日: 平成 5年月日: 平成	年 月 日 年 月 日 年 月 日 年 月 日 、常に症状	(4) 自己導尿の常時施行 無 · 有 開始 終了 (5) 完全尿失禁状態 無 · 有 (カテーテン (6) そ の 他 の 手 術 無 · 有 ( が出現している状態である。症状は悪化傾向に	年月日: 平成年月日 ル留置: 平成年月日) )平成年月日
3 人工職器等 (1)人工肛門の造設 (2)尿路変更術 (3)新膀胱造設 現立時の日常生活活動能力及び労働能力 (必ず記入してください) 予後	無 · 有 造設 閉鎖 無 · 有 造設 閉鎖 無 · 有 造設 閉鎖 無 · 有 手術	2年月日: 平成 2年月日: 平成 2年月日: 平成 2年月日: 平成 5年月日: 平成 5年月日: 平成	年 月 日 年 月 日 年 月 日 年 月 日 、常に症状	(4) 自己導尿の常時施行 無 · 有 開始 終了 (5) 完全尿失禁状態 無 · 有 (カテーテン (6) そ の 他 の 手 術 無 · 有 ( が出現している状態である。症状は悪化傾向に	年月日: 平成年月日 ル留置: 平成年月日) )平成年月日
声の発生が弱くて聞き 3 人工職器等 (1)人工肛門の造設 (2)尿路変更術 (3)新膀胱造設 現症時の日常生活活動能力及び労働能力 必ず記入してください)	無・有 造影 開発 無・有 造影 無・有 手術 生活環境内の化 回りのこともで	2年月日: 平成 2年月日: 平成 2年月日: 平成 2年月日: 平成 5年月日: 平成 5年月日: 平成	年 月 日 年 月 日 年 月 日 年 月 日 、常に症状	(4) 自己導尿の常時施行 無 · 有 開始 終了 (5) 完全尿失禁状態 無 · 有 (カテーテン (6) そ の 他 の 手 術 無 · 有 ( が出現している状態である。症状は悪化傾向に	年月日: 平成年月日 ル留置: 平成年月日) )平成年月日
声の発生が弱くて聞き 3 人工臓器等 (1)人工肛門の造設 (2)尿路変更術 (3)新膀胱造設 現症時の日常生活活動能力及び労働能力 必ず記入してください) 予後	無・有 造影 開発 無・有 造影 無・有 手術 生活環境内の化 回りのこともで	2年月日: 平成 2年月日: 平成 2年月日: 平成 2年月日: 平成 5年月日: 平成 5年月日: 平成	年 月 日 年 月 日 年 月 日 年 月 日 、常に症状	(4) 自己導尿の常時施行 無 · 有 開始 終了 (5) 完全尿失禁状態 無 · 有 (カテーテン (6) そ の 他 の 手 術 無 · 有 ( が出現している状態である。症状は悪化傾向に	年月日: 平成年月日 ル留置: 平成年月日) )平成年月日

 

 病院又は診療所の名称
 〇
 ○
 病
 院
 診療担当科名
 内科

 所
 在
 地
 ○○市
 ○○町
 ○○
 医師氏名
 ○
 ○

 所 在 地 〇〇市 〇〇町 〇〇

医師氏名 〇 〇 〇 〇 印

### <化学物質過敏症 1級>

(付 記)

○ 本例は、初診日が「平成 22 年5月11日」であるので、障害認定日は 1 年6月後の平成 23年11月11日となる。

この診断書の障害の状態は、平成 23年12月17日現症のもので、障害認定日以降3月以内の診断書であるので、障害認定日の障害の状態はこれで確認できる。

○ 傷病は「化学物質過敏症」であるので、⑫、⑮、⑯欄は必ず記載されてい なければならない。

#### ■認 定一

障害の程度は、生活環境内の化学物質によって、動けなくなるほどの筋肉痛や脱力感、頭痛、易疲労、嘔吐、下痢、呼吸困難、動悸、視力低下、湿疹などの多様な症状が出現するため、日常生活は全介助の状況となっている。また、一般状態区分は「身のまわりのこともできず、常に介助を必要とし、終日就床を強いられ、活動の範囲がおおむねベッド周辺に限られるもの」となっていることから、「日常生活の用を弁ずることを不能ならしめる程度のもの」に該当すると認められるので、1級9号と認定される。

## 化学物質過敏症 2級の認定事例

他

(フリガナ)

氏 名

住 所

障害の原因

となった 傷病名

④傷病の原因

含む。)かどうか。

初診年月日

診断書作成医療機関 における初診時所見

(昭和 平成 22年 6月 2日)

現在までの治療の内

容、期間、経過、その

現状の症状、その他

参考となる事項

測

般状態

**B**)

身長

視野

他参考となる事項

**(1)** 

8

11)

計 お願い

(平成

12

)臨床所見等は

診療録に基づいてわかる範囲で記入してください

0

					<del>                                      </del>	<u> </u>	0)	1/	ASS		
13	血液·造血器	(平成	年	月	日現症	Ē)				-	
1	臨床所見				2 ф.	液検査	成 績	(平成	年 月	日)	
	(ア) 自覚症状										
	疲 労	感 (	無・有・	著)	(ア)	末梢血液	夜			(イ) 骨 髄	
	動	悸 (	無・有・	著)	:	赤 血	球		×万/ψℓ	有核細胞	×万/≠ℓ
	息 切	n (	無・有・	著)		ヘモグロヒ	ごン濃度		g/dl	巨拔球	/µl
	発	熱 (	無・有・	著 )		ヘマトク	リット		%	<b>赤</b> 芽 球	%
	関 節 症	状 (	無・有・	著)		白 血	球		/µl	顆 粒 球	%
	易感染	症 (	無・有・	著)	ļ	顆 粒	球		1μθ	リンパ球	%
	(イ) 他覚所見					単	球		1%	病的細胞	°/ <sub>00</sub>
	リンパ節腫	. 脹 (	無・有・	著 )		リンパ	、球		/μθ	顆粒球(G)赤芽球(	E)との比(G/E)
	出血傾	向 (	無・有・	著 )	]	病的絲	田胞		0/00		
	紫	斑 (	無・有・	著)		血小	板/		×万/μℓ	(ウ) 出血傾向	
	肝	腫 (	無・有・	著 )		網赤血	球数		0/00	出血時間(	法) 分
	脾	腫 (	無・有・	著 )		血清総	蛋 白		g/dl	A P T T (基	準値 秒) 秒
3	輸血の回数及び総	量									
	回 講	+		Me _	(II) 2	その他	CRP -	検査値	LDH -	施設基準値 検査値	]
	(平成 年 月	о. <del>Т</del> е	年 月	<b>(B)</b>	ļ	L			<u></u> l.		_
		日~平成		<u></u>		, m //h m	- F				
4	凝固因子製剤輸注	:の回致及(	<b>小童</b>		6 7	その他の	りげ見				
	回言	† /		Me	1						
	(平成 年 月)	16~平成	年 月	日)							
5	造血幹細胞移植				1						
	<b>無</b> 有 (平	成 年	月目	1)							
	経過(										
<u></u>					1						

① 免疫機能障害 (平成 年 月 日現症)	
1_ 検 査 成 績	2 身 体 症 状 等
検査項目 検査日 単位 ・・・・・ 平均値	①1日1時間以上の安静臥床を必要とするほどの強い倦怠感及び
CD4陽性Tリンパ球数 /µl	易疲労感が月に7日以上ある 無 )
	②病態の進行のため、健常時に比し10%以上の体重減少があ (有・無)
記入し、一番右の欄にはその平均値を記入してください。)	③月に7日以上の不定の発熱(38℃以上)が2ヶ月以上続く (有・無)
<b>検索項目</b> 検査日 単位 ・・・・	④1日に3回以上の泥状ないし水様下痢が7日以上かる (有・無) ⑤1日に2回以上の嘔吐あるいは30分以上の嘔気が月に7日 (有・無)
全	以上ある
へモグロビン量 g/dℓ	⑥動悸や息苦しくなる症状が毎日のように出現する (有・無)
血小板数 万/40	⑦抗HIV療法による日常生活と支障が生じる副作用がある
HIV-RNA = 3t'-/M2	(①~⑥の症状を除く)(抗HIV療法を実施している場合) (有・無)
(減症日以前の4週間以上の削隔をおいて実施した連続する直近2回の検査結果を 記入してください。)	③生鮮食料品の摂取禁止等の日常生活活動上の制限が必要である (有・無)
ECCCCCC.	③1年以内に口腔内カンジダ症、帯状疱疹、単純ヘルペスウイルス感染症
	伝染性軟属腫、尖圭コンジローム等の日和見感染症の既往がある (有・無)
	⑩医学的理由により抗HIV療法ができない状態である (はい・いいえ)
3 現在持続している副作用の状況 □ 代謝異常 □ リポアトロフィー □ 肝障害 □ 腎障害 □ 精神障害 □ 神経障割	✓ 4 エイズ発症の既往の有無 5 回復不能なエイズ合併症のため か助なくしては日常生活がほと
□ 1、財政策 1 リップトロンイー □ 所障者 □ 背障者 □ 精神障害 □ 特種障害 □ 日本障害 □ その他(薬剤名、服薬状況及び副作用の状況)	んど不可能な状態である。
CONSTRAINT MERITAL DESIGNATION OF THE PROPERTY	
	有・無   はい・いいえ
	J
6 肝炎の状況 (□薬剤性 ・□B型・□C型 ・□その他(	)) (肝炎を発症している場合は必ず記載してください。)
(1) 検査所見 (2) 臨床	<b></b>
検査項目 単位 食道	静脈瘤 無 ・ 有 (内視鏡による 、X線造影による、 その他( ))
	便 変 無・ 有 ( 代償性 、 非代償性 )
	胞癌 無·有
	脳 症 無・有 (1年以内に発症したことがある)
	水 無 ・ 有 ・ 著 管出血 無 ・ 有 (1年以内に発症したことがある)
	■ 山血
⑤ その他の障害 (平成 24 年 2 月 6 日現症)	<del></del>
1 症 状	2 検 査 成 績
(1) 自 覚 症 状	(1) 血液·生化学検査
動けなくなるほどの頭痛、めまい、動悸、吐き気、倦怠感、のど	検査項目 単位 施設基準値 ・・・・・・・
や眼の痛み、視力低下感、思考力、集中力の低下などの多彩な症	赤血球数 万/40
状が空気汚染化学物質により容易に誘発、増悪する。	ヘモグロビン濃度 g/dl
	ヘマトクリット %
	血清総蛋白 g/dl 血清アルブミン g/dl
	m(H//// 5) g/ (t)
(2) 他 覚 所 見	(2) その他の検査成績
尿、一般生化学検査、血液検査では異常なし。	(2) その他の検査収損
理学的所見としては、平衡機能障害、眼球追従運動障害がある。	
3 人工臟器等	<u> </u>
	日 (4) 自己導尿の常時施行 無・有
	87年月日: 平成 年 月 日
(2) 尿 路 変 更 術 無 · 有 造設年月日: 平成 年 <u>月</u>	日 (5) 完全 尿失禁状態 無・有 (カテーテル留置: 平成 年 月 日)
The state of the s	B
(3) 新膀胱造設無有手術年月日: 平成年月	日(6)その他の手術 無・有( )平成 年 月 日
<b>®</b>	
現症時の日常生活活 日常生活にも著しい支障が生じており、	身の回りのある程度のことはできるが、しばしば介助がいり、日中の50%
動能力及び労働能力以上は就床している状態である。	
(必ず記入してください)	
の ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
予 後   不明 (必ず記入してください)	
18	
備考	
上記のとおり、診断します。 平成 24 年 2 月 6	3 <b>A</b>
病院又は診療所の名称 〇 〇 病 院	診療担当科名 内科
所在地OO市OO町OO	医師氏名 〇 〇 〇 〇

所 在 地 〇〇市 〇〇町 〇〇

### <化学物質過敏症 2級>

(付 記)

〇 本例は、初診日が「平成 22年6月2日」であるので、障害認定日は 1 年 6月後の平成 23年12月2日となる。

この診断書の障害の状態は、平成24年2月6日現症のもので、障害認定日以降3月以内の診断書であるので、障害認定日の障害の状態はこれで確認できる。

○ 傷病は「化学物質過敏症」であるので、②、⑤、⑥欄は必ず記載されてい なければならない。

#### ■認 定

障害の程度は、血液・生化学検査にて異常はないが、動けなくなるほどの頭痛、めまい、動悸、吐き気、倦怠感、のどや眼の痛みなどの症状が化学物質により容易に誘発、増悪し、日常生活に著しい支障が生じ、就労は全くできず、一般状態区分は「身のまわりのある程度のことはできるが、しばしば介助が必要で、日中の50%以上は就床しており、自力では屋外への外出等がほぼ不可能となったもの」となっていることから、「日常生活が著しい制限を受けるか、又は日常生活に著しい制限を加えることを必要とする程度のもの」に該当すると認められるので、2級15号と認定される。

# 化学物質過敏症 3級の認定事例

3級

(フリガナ) 0000	000						昭和	١					T	T	
氏名 〇 〇	0	0			生生	年月日	平成	4	1年2	月 19	9 日生	(45 歳)	性別	男	·(女)
住 所 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	00	郡ī 区	<sup>†</sup> О	00	町 村	[区 ]								•	
D 障害の原因					2	傷病の	発生年	月日	昭和 2	22 年	6.	月頃	日本	療録	で確認 申立て 目)
となった  化学物質過敏 傷 病 名	症						<u></u> め初めて を受けた		昭和公子の	22 年	7 .	月 8	日本	療録	で確認
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				⑤既	存	V 119/0R	なし			⑥ 既往	<u>_</u>		な		<b>3</b> 5)
D			a) Cいる場合			——— った日	平成		年	<u>[ 54.1±</u> 月		日		確	認
傷病が治った(症状が固定して治療 の効果が期待できない状態を 含む。)かどうか。		W-10-2 (			10.	)/CH	十八		<del></del>					推	定
	傷病が	が治って	ていない場合	•••••	・症	状のよく	くなる見	込	有	• 4	₩ •	不	<b></b>		
③ 診断書作成医療機関 における初診時所見 We	*00408	5 - 10 - 1		===	œ0±	D24	<b>#</b>		="1.44-1-1					= - 15	
初診年月日など	この症状がみら	られる。	めまい、視覚野 これらの症状	展帯、№ 代は、洗	上剤、	脱力、 シャン	乗中の1	多水、	正場の臭	えている。	さるカル	ED D D D D D D D D	下翔、 く悪化し	しやす	た。
(昭和正平成 22年 7月 8日)								·		診療	回数	年間	12回	、月平均	10
			オン、ハイシー を避けて生活し			処方する	るも症り	大変化;	なく、	手術	手術名(		-		)
他参考となる事項										麻	手術年月	目(	年	月	月)
⑩ 現状の症状、その他 参考となる事項 現在	Eも症状は同様	様で、脳	職場の同僚のシ	ノャンフ	プーや	洗剤等の	の臭いに	耐え	られず、	平成2	3年3月	]で仕	事を辞る	めてい	る。
身長		現 体重	在	kg	握力:	右		k	·····································	右眼	裸眼			矯正	
計測	cm	健	康時	kg		左	レベル	k	g 音明瞭度	左眼	裸眼			矯正	
1 1		調節				40/)	/ -	ACICH		١,	_	最高	1		mmHg
<ul><li>一般状態区分表(ア無症状で社会活動ができ、イ軽度の症状があり、肉体労</li></ul>	平成 24 制限を受ける 働は制限を受	ことなく けるが歩	、発病前と同等 は行、軽労働や	) (該 にふる。 座業は	まえる	もの · もの	例えば	いかーク	% % つを○で囲・ 家事、事	おなど					mmHg
2 - 般 状 態 区 分 表 (ア 無症状で社会活動ができ、イ 軽度の症状があり、肉体労働・サ 歩行や身のまわりのことはでエ 身のまわりのある程度のこと	平成 24 制限を受ける 働は制限を受 できるが、時に とはできるが、し	年 1 ことなく けるが歩 少し介明 しばしば	、発病前と同等 を行、軽労働や めが必要なことも 介助が必要で、	) (該 にふる。 座業は あり、車 、日中の	左耳 当する まえる できる 妥労働 D50%	もの もの はできた 以上は	dB 似でどれ 例えば ないが、 就床して	、軽い日中のおり、	% つを〇で囲 家事、事 050%以_ 自力では	んでくが 務など 上は起り 上屋外へ	ださい。) 居してV 〜の外出	るもの		「能とな	
② - 般 状 態 区 分 表 ( ア 無症状で社会活動ができ、 イ 軽度の症状があり、肉体労 ・ 歩行や身のまわりのことはで	平成 24 制限を受ける 働は制限を受 できるが、時に とはできるが、し	年 1 ことなく けるが歩 少し介明 しばしば	、発病前と同等 ほ行、軽労働や かが必要なことも 介助が必要で 終日就床を強い	) (該 にふる。 座業は あり、軽 、日中の	左耳 当する まえる できる 妥労働 D50%	もの もの はできた 以上は	dB 似でどれ 例えば ないが、 就床して	、軽い日中のおり、	% つを〇で囲 家事、事 050%以_ 自力では	んでくが 務など 上は起り 上屋外へ	ださい。) 居してV 〜の外出	るもの		「能とな	
② 一般 状態 区 分 表 ( ア 無症状で社会活動ができ、 イ 軽度の症状があり、肉体労・ ウ 歩行や身のまわりのことはで エ 身のまわりのある程度のこと オ 身のまわりのこともできず、  ③ 血液・造血器 (平成	平成 24 制限を受ける 働は制限を受 できるが、時に とはできるが、し	年 1 ことなく けるがが 少し介助 しばしば 優とし、 <b>障</b>	、発病前と同等 を行、軽労働や が必要なことは 介助が必要で、 終日就床を強い <b>書</b> <b>日現症</b> )	) (該にふる。 にふる。 座業は あり、軽 、日中の いられ、	左耳 当する まえる できる。 経労働 D50% 活動の	もの もの はできた 以上は り <b>範囲が</b>	dB はんでどれ 例えば ないが、 就床して ぶおおむ	いかークス を	% つを〇で囲 家事、事 り50%以」 自力では ド周辺に	んでくが 務など 上は起り 上屋外へ	ださい。) 居してV 〜の外出	るもの		「能とな	
② 一般状態区分表( ア無症状で社会活動ができ、 イ軽度の症状があり、肉体労働が、力を行や身のまわりのことはです。 まりのまわりのこともできず、	できるが、時によいできるが、時にかけるが、時にかけるが、時によってきるが、時になっています。	年 1 ことなく けるがが 少し介助 しばしば 優とし、 <b>障</b>	、発病前と同等 た行、軽労働や めが必要なこと 介助が必要で 終日就床を強い 書	) (該にふる。 にふる。 座業は あり、軽 、日中の いられ、	左耳 当する まえる できる。 経労働 D50% 活動の	もの もの はできた 以上は り <b>範囲が</b>	dB はんでどれ 例えば ないが、 就床して ぶおおむ	いかし、軽い日中のおり、ねべっ	% つを〇で囲 家事、事 050%以_ 自力では	んでくが 務など 上は起り 上屋外へ	ださい。) 居してV 〜の外出	るもの		「能とな	
	平成 24 制限を受ける 働は制限を受 できるが、時に とはできるが、 常に介助を必 年 月	年 1 たことなく。けるがサウレ介則しばしば、要とし、 <b>障</b>	、発病前と同等 を行、軽労働や が必要なことで 介助が必要で 終日就床を強い <b>吉</b> <b>日現症</b> ) 2 血 液 検 (ア) 末 梢 血	) (該にふる。 に本者)、 (を業めり、 (なまり、 (なまり、 (なまり、 (なまり、 (なまり、) (なまり、 (なまり、) (なまりも) (なまり、) (なまり。) (なまり。) (なまり。) (なまり。) (なまり。) (なも) (なも) (なも) (なも) (なも) (なも) (なも) (なも	左耳 当する きえる で 受労働 か 50% 活動の <b>万</b>	もの もの はできた 以上は り <b>範囲が</b>	dB がしてどれ 例えば ないが、 就床して いおおむ 年	いいでは、軽いのおいでは、私をいった。	% つを〇で囲 家事、事 り50%以」 自力では ド周辺に	あってくが 務など 上は起り :屋外へ ・限られ	ださい。) 居してい の外出 るもの	いるもの			ったもの
	平成 24 制限を受ける 働は制限を受 できるが、時に とはできるが、 常に介助を必	年 1 5ことなく。 けるがサントのようには「はない」 (対しない) はばしば (要とし、) (は ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	、発病前と同等 を行、軽労働や が必要なことで 介助が必要で 終日就床を強い <b>吉</b> <b>日現症</b> ) 2 血 液 検 (ア) 末 梢 血 赤	) (該に を を を を を を と あり、 取 り い ら れ い ら れ い ら れ い ら れ い ら れ い ら れ い ら れ り り り り り り り り り り り り り り り り り り	左耳 当する き で 登 労 の 50% 活動 の 積	もの もの はできた 以上は り <b>範囲が</b>	dB Mえば が、 就床して ジおおむ 年 ×万/	いいでは、軽いのおいでは、私をいった。	% つを○で囲 家事、事 り50%以」 自力では ド周辺に 日)	あってくが 務など 上は起り :屋外へ ・限られ	ださい。) 話してい みもの 髄 細	いるもの			
	平成 24 制限を受ける受に対し、制制は制が、るが、さるができるが、とはでかりをは、 中 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有	年 1 5ことなく、 けるがサルクトの しばしば 5 要とし、 障	、発病前と同等を持て、軽要なこで、終日の は 中間 で を を を を を を を を を を を を を を を を を を	) (該る) (本業り、かられ、の) (本業の) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本	左耳 当まで経労働 D50% 積 度 ト	もの もの はできた 以上は り <b>範囲が</b>	dB ほんでどれ 例えば はいが、 就床して ぶおおむ 年 ×万/ g/	しか 、	% つを○で囲 家事、事 り50%以」 自力では ド周辺に 日)	別んでくれ ・ 務は起外へれ ・ 有巨麻	ださい。) 居してい と の 外 は 細 が は 対 す ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	をままま			5/µl /µl /µl %
	平成 24 制像を見いている。 中間に 制かい できない を 別に かい を は に かい を は に かい を	年 1 ことなく けるがササード はい	、発病を関係をして、経療ののでは、発病のでは、	) (該る) (本業り、かられ、の) (本業り、かられ、の) (成 球 ) (で ) が ) (本	左耳する。 はまで 全の を を の を の を の を の の の の の の の の の の の の の	もの もの はできた 以上は り <b>範囲が</b>	dB ほんでどれ 例えば はいが、 就味して ぶおおむ 年 ×万/ g/	ルかー、 、 軽 中 の 、	% つを○で囲 家事、事 り50%以」 自力では ド周辺に 日)	別んでくれ 務な起いへれ 移口が頼	ださい。) 居してい と の 外 の も の し し 数 芽 類 類 類 類 類 類 類 り り り り り り り り り り り り	をまままま			5/µl /µl %
	平成 24 制限を受ける受に対し、制制は制が、るが、さるができるが、とはでかりをは、 中 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有	年 1 ことなく けるがササード はい	、発病を含めた。 発病 前 学像 ない 変	) (該る) (本業り、かられ、の) (本業の) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本	左耳する。 さるの で 全の を の を の を の を の の の の の の の の の の の の の	もの もの はできた 以上は り <b>範囲が</b>	dB ほんでどれ 例えば はいが、 就味して ぶおおむ 年 ×万/ g/	ルかー、 、	% つを○で囲 家事、事 り50%以」 自力では ド周辺に 日)	しん 務は屋 限   有巨 寿 顆 リ	ださい。) 居してい と ない を もの してい は は ます は は ます は に に に に に に に に に に に に に	かるもの 色味 来来 来来 ま			5/µl /µl /µl % %
	平成 24 制像を見いている。 中間に 制かい できない を 別に かい を は に かい を は に かい を	年 1 5ことなく、 けるがサルクトの しばしば (要とし、 ) ) ) ) ) ) ) ) )	、発病をとで、終して、発病ののでは、発病ののでは、変化ののでは、変化ののでは、変化のでなのでは、変化のでないのでは、変化のでないのでは、変化のでは、変化のでは、変化のでは、変化のでは、変化のでは、変化のでは、変化のでは、変化のでは、変化のでは、変化のでは、変化のでは、変化のでは、変化のでは、変化のでは、変化のでは、変化のでは、変化のでは、変化のでは、変化のでなのでなのでは、変化のでは、変化のでは、変化のでは、変化のでは、変化のでは、変化のでは、変化のでは、変化のでは、変化のでは、変化の	)に座あ、いらな、などり、な業り中、、の成 球池・サン・の 成 球池・サン・ は ないまかい は は は かいま ない は ない	左耳 立 立 さ さ で 医 り 50% 続 腹 ト で 成 で の あ の の の の の の の の の の の の の	もの もの はできた 以上は り <b>範囲が</b>	dB ほんでどれ 例えば ないが、 気がはおむ 年 × 万/ //	ルかー、 、 軽 中 の 、	% つを○で囲 家事、事 り50%以」 自力では ド周辺に 日)	人の   お	ださい。) にかいる を を はする はいる を はする はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる はい	かるもの を		×7	5/µl /µl % % % % % % %
	平成 24 では、 24 では、 24 では、 24 できない。 24 できない。 24 できない。 25 でかい。 25 でかい。 25 でかい。 25 でかい。 25 できない。	年 1 5ことなく けるが サリング 1 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	、発病を受験を表情があり、終して、発病を要が必要をを書いて、を表情があり、発生を表情を表して、とのでは、表情を表して、発生を表情を表して、発生を表情を表して、発生を表情を表して、発生を表情を表して、発生を表情を表して、表情を表情を表して、表情を表情を表情を表情を表して、表情を表情を表情を表情を表情を表情を表情を表情を表情を表情を表情を表情を表情を表	)に座あ、いらな、なない。 (な業り中、のの成なでリリカルでは、またのでは、東ののでは、東ののでは、ないでは、またのでは、また	<u>左</u> 耳するるる動の を の を の を を の を を の を で の を の を の を の を の を の を の を の を の を の の の の の の の の の の の の の	もの もの はできた 以上は り <b>範囲が</b>	dB ほんでどれ 例えば ないが、 気がはおむ 年 × 万/ //	か	% つを○で囲 家事、事 り50%以」 自力では ド周辺に 日)	人の   お	ださい。) にかいる を を はする はいる を はずれば、	かるもの を	#ば不可	×7	5/µl /µl % % % % % % %
	平制働させ常 年 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	年 1 によなくがます。	、発行が介 終 日 日 2 (ア) (京 )	)に座あ、いち、直面ロク血粒 パ細小 (な業り中れ、の成 球響・球球球球胞板	左当まで竖り50% 績 、 とまでよるるの動の 横 度	もの もの はできた 以上は り <b>範囲が</b>	dB ほんでどれ 例えば、 いが、 年 × 万/ / / 。 × 万/	か、日おね 襲 月 (山仏 % 山山	% のを〇で囲 家事、事 り50%以」 自力では が周辺に 日) (イ) ず		ださ このもの 髄 海 女芽粒 〕 状 頃 の は か は か ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま	をまままり をままま をままま とり まままま とうしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう しゅうしゅう しゅう	#ば不可	×7	5/µl /µl % % % % % % %
	平制働させ常 年 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	年 1 にとなるが少しに、要 に	、	)に座あ、いち、直面ロク血粒、小血、は、一、な業り中、の成ない。 がおけい おおびり がおびまない はない はいまない はいまい はいかい はい	左当えで竖り5万万 績 、 とまでよるるの動の 横 度	もの もの はできた 以上は り <b>範囲が</b>	dB ほんでどれ 例えば、 いが、して 年 × 万/ / / 。 × 万/	か、日おね <b>態</b> 月 Wdd % Wd Wd / oo / wd / oo	% のを〇で囲 家事、事 り50%以」 自力では が周辺に 日) (イ) ず		だされているした。対すれては、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	をまままります (1)	E)とのは 法	×7	5/µl/µl/%%%%%
	平制働させ常 年 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	年 1 にとなるが少しに、要 に	、	)に座あ、いち、直面ロク血粒 パ細小 (な業り中れ、の成 球響・球球球球胞板	左当えで竖り5万万 績 、 とまでよるるの動の 横 度	もの もの はできた 以上は り <b>範囲が</b>	dB ほんでどれ 例えば、 いが、して 年 × 万/ / / 。 × 万/	か、日おね 襲 月 (山仏 % 山山	% のを〇で囲 家事、事 り50%以 自力では が周辺に ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		だされているした。対すれては、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	をまままります (1)	E)とのは	×7	5/µl/µl/%%%%%
	平制働させ常 年 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	年 1 に は は は は は は は は は は は は は は は は は は	、	)に座あ、いち、直面ロク血粒、小血、は、一、な業り中、の成ない。 がおけい おおびり がおびまない はない はいまない はいまい はいかい はい	左当えで受り活力 績 ド農トやドドマリングコープ あるるのが 動の	もの もの はできた 以上は り範囲が <b>状</b>	dB はんでどれ 例がは、て 年 × 万/ g/ / ^ / / ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~	か、日おね <b>態</b> 月 Wdd % Wd Wd / oo / wd / oo	% のを〇で囲 家事、事 り50%以」 自力では が周辺に 日) (イ) ず		だっている 髄 海芽粒 J状 頃していい という でいる こう は 細 大き が は の は の は する できます は できます は ままま ままま ままま しょう は は ままま ままま しょう は ままま しょう しょうしょう しょうしょう は ままま しょうしょう しょうしょうしょう しょうしょうしょう しょうしょう しょう	をまままります (1)	E)とのは 法	×7	5/µl/µl/%%%%%
(平)	平制働させ常 年 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	年 1 に は で で で で で で で で で で で で で で で で で で	、 たけが介 終 日 2 (ア ・	)に座あ、い 査 1 血ロク血粒 パール総 ( ふ業り中 れ 成 球 でリー パ細 球蛋 C R 以 球球球球 脱板 数 白 R R R R R R R R R R R R R R R R R R	左当えで至り50% 績 、 度トやややなりを入りまでを250% 様 度	ものがはいますが、以上はは、い範囲が、大	dB はんでどれ 例がは、て 年 × 万/ g/ / ^ / / ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~	か	% のを〇で囲 家事、事 り50%以 自力では が周辺に ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		だっている 髄 海芽粒 J状 頃していい という でいる こう は 細 大き が は の は の は する できます は できます は ままま ままま ままま しょう は は ままま ままま しょう は ままま しょう しょうしょう しょうしょう は ままま しょうしょう しょうしょうしょう しょうしょうしょう しょうしょう しょう	をまままゆ芽間、	E)とのは 法	×7	5/µl/µl/%%%%%
(平成 年 ) 1 日	平制働さは常年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	年 1 ない は 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は	、	)に座あ、い 査 1 血ロク血粒 パール総 ( ふ業り中 れ 成 球 でリー パ細 球蛋 C R 以 球球球球 脱板 数 白 R R R R R R R R R R R R R R R R R R	左当えで至り50% 績 、 度トやややなりを入りまでを250% 様 度	ものがはいますが、以上はは、い範囲が、大	dB はんでどれ 例がは、て 年 × 万/ g/ / ^ / / ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~	か	% のを〇で囲 家事、事 り50%以 自力では が周辺に ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		だっている 髄 海芽粒 J状 頃していい という でいる こう は 細 大き が は の は の は する できます は できます は ままま ままま ままま しょう は は ままま ままま しょう は ままま しょう しょうしょう しょうしょう は ままま しょうしょう しょうしょうしょう しょうしょうしょう しょうしょう しょう	をまままゆ芽間、	E)とのは 法	×7	5/µl/µl/%%%%%
(平無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無無	平制働きと常年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	年 1 に は で で で で で で で で で で で で で で で で で で	、 たけが介 終 日 2 (ア ・	)に座あ、い 査 1 血ロク血粒 パール総 ( ふ業り中 れ 成 球 でリー パ細 球蛋 C R 以 球球球球 脱板 数 白 R R R R R R R R R R R R R R R R R R	左当えで至り50% 績 、 度トやややなりを入りまでを250% 様 度	ものがはいますが、以上はは、い範囲が、大	dB はんでどれ 例がは、て 年 × 万/ g/ / ^ / / ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~	か	% のを〇で囲 家事、事 り50%以 自力では が周辺に ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		だされている をしまり では、「大きないのものです」 はずれ は、「大きないのは、「おいった」 は、「おいった」 は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は	をまままゆ芽間、	E)とのは 法	×7	5/µl/µl/%%%%%
一般 状 悠 区 分 数 (	平制働きは常年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	年 1 ない は 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は	、 たけが介 終 日 2 (ア ・	)に座あ、い 査 1 血ロク血粒 パール総 ( ふ業り中 れ 成 球 でリー パ細 球蛋 C R 以 球球球球 脱板 数 白 R R R R R R R R R R R R R R R R R R	左当えで至り50% 績 、 度トやややなりを入りまでを250% 様 度	ものがはいますが、以上はは、い範囲が、大	dB はんでどれ 例が休 は おおむ 年 × 万/ g/ / ^ / / ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~	か	% のを〇で囲 家事、事 り50%以 自力では が周辺に ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		だされている をしまり では、「大きないのものです」 はずれ は、「大きないのは、「おいった」 は、「おいった」 は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は	をまままゆ芽間、	E)とのは 法	×7	5/µl/µl/%%%%%

① 免疫機能障害	.(平成 年	月	日現症)	
1 検査成績				2 身 体 症 状 等
検査項目 検査日 単	<b>並</b> 位 · ·	· · ·	平均値	①1日1時間以上の安静臥床を必要とするほどの強い倦怠感及び
CD4陽性Tリンパ球数 /	ul			易疲労感が月に7日以上ある (有・無)
				②病態の進行のため、健常時に比し10%以上の体重減少があ (有・無)
(減症日以前の4週間以上の間隔 記入し、一番右の欄にはその平)	鬲をおいて実施した連続 均値を記入してください。	する直近2回の検: )	査結果を	③月に7日以上の不定の発熱(38℃以上)が2ヶ月以上続く (有・無)
			···	④1日に3回以上の泥状ないし水様下痢が7日以上ある (有・無)
(機能項目	位 -	·	•	⑤1日に2回以上の嘔吐あるいは30分以上の嘔気が月に7日 (有・無) 以上ある
	μl			⑤動悸や息苦しくなる症状が毎日のように出現する (有・無)
<del>                                   </del>	/de /ul			⑦抗HIV療法による日常生活に支障が生じる副作用がある
	-/ше -/ше	<u>_</u>		(①~⑥の症状を除く)がHIV療法を実施している場合) (有・無)
(減症日以前の4週間以上の間隔		する直近2回の検	査結果を	③生鮮食料品の摂取禁止等の日常生活活動上の制限が必要である (有・無)
記入してください。)				①1年以内に口腔内カンジタ症、帯状疱疹、単純ヘルペスウイルス感染症
				伝染性軟属腫、尖圭コンジローム等の日和見感染症の既往がある (有・無)
				⑩医学的理由により抗HIV療法ができない状態である (はい・いいえ)
3 現在持続している副作				4 エイズ発症の既往の有無 5 回復不能なエイズ合併症のため
□代謝異常□リポアトロフィ			障害 🗆 神経障害	字
□ その他(薬剤名、服薬状疹	2.及び副作用の状で	L)		
		/		有・無はい・いいえ
6 肝炎の状況 (口 薬剤	削性 ・ ロ B型	✓ □ C型	<ul><li>しその他(</li></ul>	)) (肝炎を発症している場合は必ず記載してください。)
(1) 検査所見			(2) 臨床	所見
検査項目	単位・・・		△ 本:	静脈瘤 無 ・ 有 (内視鏡による 、X線造影による、 その他( ))
血清アルブミン				静脈瘤 無 · 有 (内視鏡による 、X線造影による、 その他( ))   便 変 無 · 有 ( 代償性 、 非代償性 )
AST (GOZY)			<del></del> -	胞癌無・有(代原性、・・・有)
ALT (GPT)				脳 症 無 有 (1年以内に発症したことがある)
プロトインビン	%		腹	水 無・有・著
	延長秒 /20	<del></del>	_	管出血 無・有 (1年以内に発症したことがある)
総ビリルビン(※)	mg/dl		(* E9/VE	ごン値の上昇をきたす薬剤の使用 無 ・ 有 )
⑤ その他の障害	(平成 24 年	1月15	5 日現症)	
1 症 状	<del></del>			2 検 査 成 績
(1) 自 覚 症 状				(1) 血液·生化学検査
ルタ > , , > , → まっ	나 보존한 Xir	対なの自与	7 W±11	検査日 単位 旅設某権値
洗剤、シャンプー、香水   視覚異常、嘔吐、脱力、				検査項目
下痢、うつ状態などの症	を状が出現し、そ	のために動し	けなくなり、	赤血球数     万/㎡       ヘモグロビン濃度     g/dl
週のうち数日は自宅にで 関の利用が困難で買物な			ため、交通機	ヘマトクリット %
		.0500		血清総蛋白 g/dl
				血清アルブミン g/dl
(2) 他覚所見				
				(2) その他の検査成績
臭気に接したときには貧			なる。病状が	
長引いており、症状のE	当後に小女を小し	/ C 110°		
'				
3 人工臟器等		<u>,</u>		
(1)人工肛門の造設		設年月日: 平		日 (4) 自己導尿の常時施行 無・有 開始年月日: 平成 年 月 日
(a) E # + - #		鎖年月日: 平		終了年月日: 平成 年 月 日
(2) 尿路変更術		設年月日: 平 鎖年日日		<del>日 (3) 完全</del> 尿失禁状態 無・有 (カテーテル留置: 平成 年 月 日)
(3)新膀胱造設		<u>鎖年月日: 平</u> 術年月日: 平		日 (6)その他の手術 無・有 ( )平成 年 月 日
(O) 1/1 1/2 1/L AE B	- ··· · · · ·	м-ин. Т	~~ T /1	7TM T 7 B
16	<del></del>			
現症時の日常生活活				の社会生活や労働は困難である。軽作業は可能であるが、週のうち数日は
動能力及び労働能力    (必ず記入してください)	自宅にて休息	い必要な状態	(ග්ර	
10				
予後	不明			
(必ず記入してください)	1 -23			
18				
備考				
上記のとおり、診断しま	च ,	平成 24	1 年 1 月 1	15 A

病院又は診療所の名称 O O 病 院 所 在 地 OO市 OO町 OO

診療担当科名 内科

医師氏名 〇 〇 〇 〇 印

### <化学物質過敏症 3級>

(付 記)

○ 本例は、初診日が「平成 22年7月8日」であるので、障害認定日は 1 年 6月後の平成 24年1月8日となる。

この診断書の障害の状態は、平成24年1月15日現症のもので、障害認定日以降3月以内の診断書であるので、障害認定日の障害の状態はこれで確認できる。

○ 傷病は「化学物質過敏症」であるので、⑫、⑮、⑯欄は必ず記載されてい なければならない。

#### ■認 定—

障害の程度は、洗剤、シャンプー、香水、芳香剤など日常にありふれた臭気でめまい、視覚異常、嘔吐、脱力、集中力低下、うつ状態などの症状があり、週のうち数日自宅にて安静が必要になるため、ほとんど外出することができず、一般状態区分は「歩行や身のまわりのことはできるが、時に少し介助が必要なこともあり、軽労働はできないが、日中の50%以上は起居しているもの」となっていることから、「労働が著しい制限を受けるか、又は労働に著しい制限を加えることを必要とする程度の障害を残すもの」に該当すると認められるので、3級12号と認定される。